

16:1 また私は、大きな声が神殿から出て、七人の御使いに、「行って、七つの鉢から神の憤りを地に注げ」と言うのを聞いた。

16:2 第一の御使いが出て行き、鉢の中身を地に注いだ。すると、獣の刻印を受けている者たちと獣の像を拝む者たちに、ひどい悪性の腫れものができた。

16:3 第二の御使いが鉢の中身を海に注いだ。すると、海は死者の血のようになった。海の中にいる生き物はみな死んだ。

16:4 第三の御使いが鉢の中身を川と水の源に注いだ。すると、それらは血になった。

16:5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「今おられ、昔おられた聖なる方、あなたは正しい方です。このようなさばきを行われたからです。」

16:6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは彼らに血を飲ませられました。彼らにはそれがふさわしいからです。」

16:7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。」

16:8 第四の御使いが鉢の中身を太陽に注いだ。すると、太陽は人々を火で焼くことを許された。

16:9 こうして人々は激しい炎熱で焼かれ、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。

16:10 第五の御使いが鉢の中身を獣の座に注いだ。すると、獣の王国は闇におおわれ、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。

16:11 そして、その苦しみと腫れもののゆえに天の神を冒し、自分の行いを悔い改めようとしなかった。

16:12 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。

以前に7つの封印が解かれて、それぞれに天変地異が起きました。そして7つ目に終りかと思うと、その7つ目にはラッパが始まり、それぞれに災害が始まったのです。そしてその災害も7つめに終りかと思うと、その7つ目には「神の激しい怒りの鉢」始まったのです。

このように終りの日に起こる事々のなんと甚大なことでしょう。もはや人のことばや想像では理解も表現も不可能です。神の終りの日のみわざに対して、人類は全く無力であることを悟りましょう。

ここに対象となっているのは、「獣の像を拝む人々」や「神の御名に対してけがしごとを言う人々」です。もちろんこれは今ではありません。今は、ペテロの手紙にあるように、神は忍耐を持って待っておられるのです。しかしまた人類の争いや憎しみが絶えないことも事実です。そしてそれらの根本が”自己中心”という、神に反する生き方から来ていることを考えるなら、神様は最後のさばきをしない訳にはいかないのです。

神様のさばきがあることを、日常でも心に留めましょう。そしてまた今が”救いのとき” ”恵のとき”であることを感謝しましょう。何よりも、神を信じて救われた自分自身の救いを感謝しましょう。このような最後の日に備えて、私たちは何をすべきでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

